目　　次

【前期】　　【区分】　**科目番号**

時　　間　　割

統　合　演　習　Ⅱ　【演習】　**ＯＤ０６１４０２**　・・・・・・・・・・　1

統合演習Ⅱ　【演習】

科目番号　0D061402

通年： 688コマ
評価責任者： 稲井　哲一朗
担当教員： 分野ごとに表記

（一般目標）
安全で質の高い思いやりのある歯科医療を行うために必要な知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー［DP］）

（教育方法）
配布プリントを中心に、板書、スライド、e-learningシステム等を用いて講義を行う。
定期的に実力試験を実施し、知識の修得状況を適宜測定する。
（実習・演習）

（学習方法）
配布プリント、教科書等により予習を行うこと。講義には必ず出席すること。（必要以上に欠席しないこと。）　【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：　時間】

（評　　価）
成績評価の詳細はオリエンテーション時に配布する年間の実施要領にて確認すること。成績は試験終了後、個人別に結果を配付する。

（教 科 書）
分野ごとに表記

（参 考 書）
分野ごとに表記

総合歯科学

担当教員	山田和彦、柳絢子
教育方法	問題回答、解説、配布資料による講義を行う。
事前事後 学習方法	過去問に取り組み、弱点を明らかにしておく。歯科医療管理学の配布資料を復習する。
参考書	歯科医療管理（日本歯科医療管理学会編）、歯科医療面接アートとサイエンス第３版（砂書房）
関連DP	Ⅰ-1 歯科医療の目的と歯科医師の役割を説明できる。
	Ⅰ-4 規範を遵守した倫理的な診療行為を行うための態度を醸成する。
	Ⅰ-6 医療人として社会での果たすべき役割を自覚し、利他主義的働きにより公益増進に貢献する態度を醸成する。
その他 伝達事項	講義ではスライドをプリントにして配布する。 必須問題を復習する。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月9日	山田	基本的事項・国試問題解説
2	4月9日	山田	基本的事項・国試問題解説
3	4月23日	柳	感染対策
4	4月23日	柳	医療安全
5	6月3日	山田	医療におけるコミュニケーション、インフォームドコンセント
6	6月17日	山田	医療情報管理・診療録記載
7	6月25日	柳	滅菌・消毒・廃棄物
8	8月28日	山田	EBM、クリティカルパス、診療ガイドライン
9	8月28日	柳	かかりつけ医、チーム医療
10	9月3日	柳	総括・強化講義
11	10月15日	山田	総括・強化講義
12	11月19日	山田	総括・強化講義

高齢者歯科学

担当教員	内藤　徹、梅崎陽二朗
学習方法	講義は、プレゼンテーションに対応したサブノートと配布プリントを使用して実施する。当該領域に関連した国家試験問題の解説も併せて行う。
事前事後学習方法	事前の学習としては、教科書の該当箇所に目を通す。事後は配布プリントによって知識の定着を促す。国家試験の対策として最も確実なものは、教科書によって知識を確実なものにすることである。
参考書	佐藤裕二ら編集『よくわかる高齢者歯科学』第２版、永末書店、2023.
関連DP	Ⅲ-13 高齢者の口腔疾患の特徴と病因および身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
	Ⅳ-11 高齢者の歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面の診察と治療の介助ができる。
	Ⅴ-1 高齢化の現状、問題点および医療との関わりについて説明できる。
その他伝達事項	

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月9日	内藤	摂食・嚥下障害1
2	4月10日	梅崎	高齢者の疾患・老年症候群1
3	4月22日	梅崎	健康指標、バイタルサイン、検査値1
4	4月30日	内藤	摂食・嚥下障害2
5	5月25日	梅崎	栄養管理と栄養指導1
6	6月4日	内藤	摂食・嚥下障害3
7	6月4日	内藤	高齢者の虐待
8	7月10日	梅崎	栄養管理と栄養指導2
9	7月16日	内藤	緩和医療・終末期医療
10	7月16日	内藤	摂食・嚥下障害4
11	8月6日	内藤	介護保険、地域包括ケア1
12	8月6日	内藤	介護保険、地域包括ケア2
13	8月20日	内藤	摂食・嚥下障害5
14	8月27日	内藤	高齢者の福祉・社会保障
15	9月3日	内藤	摂食・嚥下障害6
16	10月16日	梅崎	有病者の歯科治療・全身管理1
17	11月4日	梅崎	有病者の歯科治療・全身管理2

訪問歯科センター

担当教員	今井　裕子、堤　貴司
教育方法	授業プリントを中心に、幅広い領域の重要な部分を総括し説明する。併せて、国家試験の過去問から近年の傾向を探り、対策問題を中心に解説する。
事前事後学習方法	参考書を用いて予習。関連過去問を事前にチェックする。
参考書	有病者歯科学、有病高齢者歯科治療のガイドライン（上）（下）
関連DP	Ⅲ-19 歯科診療時に留意すべき全身疾患とその全身管理について説明できる。
	Ⅳ-17 多職種連携による診療について理解し参加できる。
	Ⅴ-3 地域包括ケアにおける歯科医療の関わりについて説明できる。
その他伝達事項	国家試験対策として過去問（moodleに設問・解説を掲載）を解き、十分に理解する。 →「実践」も含めて正答選択肢だけではなく、誤答選択肢に関連する用語等をチェックする。 →誤答選択肢も重要語句が多く、他の年度で関連問題が出題されることが多い。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月9日	今井	全身疾患を有する者への配慮①（周術期口腔機能管理、循環器疾患補足）
2	4月22日	堤	訪問診療①（地域包括支援システムにおける訪問診療、チーム医療、多職種連携）
3	6月9日	今井	全身疾患を有する者への配慮②（呼吸器・アレルギー・自己免疫・ステロイド）
4	7月1日	堤	訪問診療②（患者の要介護度・全身状態に応じた訪問診療）
5	7月24日	今井	全身疾患を有する者への配慮③（肝疾患・腎疾患・他）
6	8月21日	今井	全身疾患を有する者への配慮④（循環器疾患、他総括）
7	10月21日	堤	訪問診療③（フレイル、口腔機能低下症）
8	11月2日	堤	訪問診療④（要介護者への対応、他総括）

歯内療法学

担当教員	松﨑 英津子、松本 典祥、水上 正彦
教育方法	項目別の資料と教科書を使用する。重要ポイントは資料内に書き込み・マーキングし、自分自身のオリジナルサブノートとして、いつでも見直せるようにする。また、適宜Googleフォームと学生端末を活用した小テストを行い、理解度に応じた講義を行う。
事前事後 学習方法	事前：該当範囲の教科書、3・4年次の講義・実習資料を熟読し、疑問点（どこが理解できていないか）をまとめておく。 事後：資料に付した問題、該当箇所の実践を解き、理解度をチェックする。不明な点は放置せず、質問する。 関連・補足資料はMoodle上にも提示する。
参考書	エンドドンティクス第5,6版（永末書店）、歯内療法学第5版（医歯薬出版）
関連DP	Ⅲ-8 歯・歯周組織の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
その他 伝達事項	国家試験では、領域をまたぐ問題が出題される傾向にあるため、基礎科目、臨床科目との関連について知識の整理に努める。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
保存-1	4月14日	松本	令和5年度歯科医師国家試験出題基準　総論Ⅲ, Ⅳ：大項目2の内容に関する解説
保存-4	4月20日	松﨑	令和5年度歯科医師国家試験出題基準　総論Ⅲ, Ⅳ：大項目2の内容に関する解説
保存-7・8	5月7日	松﨑	総論Ⅵ：大項目1（歯内＋修復の範囲）、総論Ⅶ：大項目1, 2の内容に関する解説
保存-9	5月8日	松本	総論Ⅶ：大項目1, 2の内容に関する解説
保存-10	5月21日	水上	（ブロック2）象牙質知覚過敏症、歯髄保存療法
保存-11・12	5月22日	松本・松﨑	歯髄保存療法、根未完成歯の歯内療法
保存-19・20	6月26日	水上	抜髄、根管形成、根管充填
保存-21	6月30日	松﨑・松本	歯髄疾患と根尖性歯周疾患、緊急処置
保存-22・23	7月2日	松﨑・松本	歯髄疾患と根尖性歯周疾患、緊急処置
保存-27	7月16日	水上	（ブロック3）偶発症、高齢者の歯内治療
保存-30・31	8月7日	松本	抜髄、感染根管治療、再根管治療、鑑別診断
保存-32・33	8月24日	松﨑	歯内-歯周疾患、外科的歯内療法
保存-34	8月27日	松本	歯の吸収、歯根破折、外傷

保存修復学

担当教員	松﨑 英津子、山田 和彦、松本 典祥、水上 正彦
教育方法	項目別の資料と教科書を使用する。重要ポイントは資料内に書き込み・マーキングし、自分自身のオリジナルサブノートとして、いつでも見直せるようにする。また、適宜Googleフォームと学生端末を活用した小テストを行い、理解度に応じた講義を行う。
事前事後 学習方法	事前：該当範囲の教科書、3・4年次の講義・実習資料を熟読し、疑問点（どこが理解できていないか）をまとめておく。 事後：資料に付した問題、該当箇所の実践を解き、理解度をチェックする。不明な点は放置せず、質問する。 関連・補足資料はMoodle上にも提示する。
参考書	第6版保存修復学21（永末書店）、保存修復学学第7版（医歯薬出版）
関連DP	Ⅲ-8 歯・歯周組織の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
その他 伝達事項	国家試験では、領域をまたぐ問題が出題される傾向にあるため、基礎科目、臨床科目との関連について知識の整理に努める。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
保存-2・3	4月16日	松﨑・水上	令和5年度歯科医師国家試験出題基準　総論Ⅲ，Ⅳ：大項目2の内容に関する解説
保存-5	4月23日	水上	総論Ⅶ：大項目1，2の内容に関する解説
保存-6	4月30日	水上	総論Ⅶ：大項目1，2の内容に関する解説
保存-13・14	5月28日	松本	（ブロック2）歯冠う蝕、根面う蝕、う蝕の検査、接着システム、コンポジットレジン修復
保存-15・16	6月12日	山田	手用切削器具、回転切削器具、各種レーザー、窩洞
保存-17・18	6月18日	松﨑・松本	コンポジットレジン修復、修復治療の前準備・補助法、補修修復
保存-24・25	7月9日	松﨑	グラスアイオノマーセメント修復、ART、レジンコーティング
保存-26	7月10日	山田	インレー修復（メタル/コンポジットレジン/セラミック/CAD/CAM インレー）
保存-28・29	8月3日	松本	（ブロック3）う蝕以外の硬組織疾患（tooth wear等）、 変色歯の治療（歯の漂白、ラミネートベニア修復）、アマルガム修復、セメント
保存-35・36	8月28日	松﨑・松本	直接修復、間接修復、補修修復
保存-37	10月20日	水上	（ブロック5）重点項目の復習（修復＋歯内）
保存-38	11月2日	松本	重点項目の復習（修復＋歯内）

歯周病学

担当教員	吉永泰周、大城希美子、丸尾直樹
教育方法	前半は、サブノートを使用し、幅広い重要な知識を説明する。 後半は、国家試験の過去問などの問題を使用して問題演習を行う。
事前事後 学習方法	講義前に関連する部分のサブノートを予習し、講義に臨む。 講義後はその日のうちに重要項目について復習し理解を深め、暗記すべき点については暗記する。
参考書	サブノート、Answer等
関連DP	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-8 歯・歯周組織の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅳ-6 歯と歯周組織の疾患の診断と基本的治療および保健指導と予防処置を実践できる。
その他 伝達事項	前期はサブノートを中心に基本的な知識の暗記に重点を置いて勉強し、 後期はその知識を活かして問題演習を中心に勉強すること。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月15日	吉永	総論Ⅲ病因・病態　大項目2　歯周組織の疾患（ｻﾌﾞﾉｰﾄ04, 05）
2	4月15日	吉永	総論Ⅳ主要症候　大項目2　歯周組織（ｻﾌﾞﾉｰﾄ02）
3	4月24日	吉永	総論Ⅵ検査　大項目1　歯周組織検査（ｻﾌﾞﾉｰﾄ07）
4	4月28日	吉永	総論Ⅶ治療　大項目1・2　基本治療(ｻﾌﾞﾉｰﾄ08)
5	5月8日	吉永	総論Ⅶ治療　大項目1・2　切除療法、組織付着療法、再生療法(ｻﾌﾞﾉｰﾄ11)
6	5月8日	大城	総論Ⅶ治療　大項目1・2　歯周形成外科(ｻﾌﾞﾉｰﾄ15)
7	6月2日	吉永	サブノート12 歯周外科の基本，術式，歯周外科の分類
8	6月2日	吉永	サブノート11-01 切除療法、02 組織付着療法
9	6月11日	大城	サブノート11-03 再生療法
10	6月11日	大城	サブノート13 根分岐部病変の治療
11	6月24日	吉永	サブノート14 外科術式、治療法の選択
12	6月24日	吉永	サブノート15 根面被覆，角化歯肉増大，選択
13	7月8日	大城	サブノート16 歯周外科器具、17　SPT
14	7月8日	吉永	臨床問題演習１
15	7月23日	大城	サブノート02 分類・特殊な歯周病
16	7月23日	吉永	サブノート07 歯周検査
17	7月30日	吉永	サブノート03 歯内歯周、04 ﾘｽｸﾌｧｸﾀｰ、05 ﾍﾟﾘｵﾄﾞﾝﾀﾙﾒﾃﾞｨｽﾝ
18	7月30日	大城	サブノート06 咬合性外傷
19	8月12日	吉永	サブノート08 歯周基本治療
20	8月12日	吉永	サブノート09-01、02、03、SRP、LDDS
21	8月19日	大城	一般問題演習
22	8月19日	吉永	臨床問題演習2
23	10月13日	大城	必修対策講義（問題演習）
24	11月9日	吉永	弱点強化問題演習

冠橋義歯学

担当教員	山口雄一郎,髙江洲雄,加我公行
教育方法	配布資料を使用し、幅広い領域の重要な部分を説明する。 その後は、国家試験の過去問から傾向を探り、対策問題を中心に解説する。
事前事後 学習方法	配布資料に記載の過去問を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。 講義での解説は必ず教科書を使うので、教科書の該当箇所の復習を必ずすること。
参考書	教科書,クラウンブリッジテクニック
関連DP	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-9 歯質欠損・歯の欠損の病態と病因を説明できる。
	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
その他 伝達事項	講義の際に使用したスライドをプリントにして配布します。 各自でバインダー等にまとめて、サブノートとして使用して下さい。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月10日	山口,髙江洲,加我	検査
2	4月21日	山口,髙江洲,加我	診断・治療計画の立案
3	4月22日	山口,髙江洲,加我	補綴前処置
4,5	4月30日	山口,髙江洲,加我	支台築造，支台歯形成
6,7	5月21日	山口,髙江洲,加我	プロビジョナルレストレーション，印象採得
8,9	6月16日	山口,髙江洲,加我	顎間関係の記録，補綴装置の製作
10,11	6月30日	山口,髙江洲,加我	ろう付け，CAD/CAMによる補綴物製作
12,13	7月7日	山口,髙江洲,加我	補綴装置の口腔内試適・装着
14,15	7月21日	山口,髙江洲,加我	術後管理
16,17	8月4日	山口,髙江洲,加我	国試対策講義１
18,19	8月18日	山口,髙江洲,加我	国試対策講義２
20,21	8月25日	山口,髙江洲,加我	国試対策講義３

有床義歯学

担当教員	都築 尊、川口智弘、吉田兼義、濱中一平
教育方法	実力試験１～３で、必修を含めたスタンダード一般・臨床項目を復習する。 実力試験４でハイレベル一般・臨床問題の対応能力を取得する。
事前事後 学習方法	授業前に、各授業で扱う内容についてMoodleの動画を視聴しておく。 授業後に、スライド集を用いて内容を説明できるようにする。
参考書	＜歯科国試パーフェクトマスター＞ ・全部床義歯補綴学 第2版 電子版あり ・パーシャルデンチャー補綴学 第2版 電子版あり
関連DP	Ⅲ-9 歯質欠損・歯の欠損の病態と病因を説明できる。
	Ⅳ-7 歯質欠損・歯の欠損の診断と基本的治療を実践できる。
	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
その他 伝達事項	【川口准教授の講義】 国家試験問題集とスライド集を配布し、講義を進めます。 【都築教授、吉田講師の講義】 オリジナル問題集と3・4年時の講義ノートで講義を進めます。講義ノートはPDFでも配布します。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月15日	川口智弘	必修、スタンダード一般（咬合・咀嚼関係・Kennedy分類・Eichner分類）
2,3	5月7日	川口智弘	必修、スタンダード一般（診査、前処置、印象採得、模型製作）
4,5	5月20日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（咬合採得、咬合器）
6,7	5月26日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（人工歯排列、ろう義歯試適、重合、装着）
8	6月3日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（残存組織・咬合の変化、粘膜調整、金属床）
9,10	6月12日	吉田兼義	スタンダード一般・臨床（顎補綴、機能回復装置）
11,12	6月17日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（構成、要件、支台装置）
13,14	6月24日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（連結子、診査、前処置、印象採得）
15	7月1日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（サベイング、設計、咬合採得）
16,17	7月8日	川口智弘	スタンダード一般・臨床（アタッチメント、即時義歯、義歯修理）
18,19	7月22日	都築　尊	ハイレベル臨床（総合的知識を要するオリジナル臨床問題の実践と解説）
20,21	7月29日	都築　尊	ハイレベル臨床（総合的知識を要するオリジナル臨床問題の実践と解説）
22,23	8月5日	都築　尊	ハイレベル臨床（総合的知識を要するオリジナル臨床問題の実践と解説）
24,25	8月12日	都築　尊	ハイレベル臨床（総合的知識を要するオリジナル臨床問題の実践と解説）
26,27	8月19日	吉田兼義	ハイレベル一般・臨床　顎補綴、機能回復装置
28	8月26日	都築　尊	ハイレベル臨床（総合的知識を要するオリジナル臨床問題の実践と解説）
29	10月14日	都築　尊	弱点補強
30	11月5日	都築　尊	弱点補強

口腔インプラント学

担当教員	加倉　加恵、　谷口　祐介、　柳　束
教育方法	最初は幅広い領域の重要な部分を解説する。その後は、国家試験の過去問から傾向を探り、対策問題を中心に解説する。
事前事後学習方法	問題集に記載の過去問を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。
参考書	よくわかる口腔インプラント学 第4版　医歯薬出版株式会社
関連DP	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
	Ⅳ-4 根拠に基づいた治療計画を立案し適用できる。
	Ⅳ-7 歯質欠損・歯の欠損の診断と基本的治療を実践できる。
その他伝達事項	国家試験の過去問をしっかり解いておくこと。過去の誤答が正解となるような問題も実際の国家試験では考えられるので選択肢の意味についても考えておくこと。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	5月20日4限	加倉　加恵	オリエンテーション、授業の進め方、国試対策、小テスト、解説講義
2	5月25日2限	柳　束	小テスト、解説講義
3	6月16日4限	柳　束	小テスト、解説講義
4	6月29日4限	谷口　祐介	小テスト、解説講義
5	7月28日1限	谷口　祐介	小テスト、解説講義
6	7月28日2限	谷口　祐介	小テスト、解説講義
7	8月10日2限	柳　束	小テスト、解説講義
8	10月16日1限	加倉　加恵	小テスト、解説講義
9	11月5日1限	加倉　加恵	小テスト、解説講義

成育小児歯科学

担当教員	柏村晴子
教育方法	実力試験まではサブノートを使用し、幅広い領域の重要な部分を説明する。 その後は、国家試験の過去問から傾向を探り、対策問題を中心に解説する。
事前事後 学習方法	問題集に記載の過去問を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。
参考書	Answer、小児歯科学第6版、パーフェクトマスター第5版
関連DP	Ⅲ-3 人体の発生、発育および加齢変化を説明できる。
	Ⅲ-7 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の発生、発育および加齢変化を説明できる。
	Ⅲ-12 小児の口腔疾患の特徴と病因および身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
その他 伝達事項	サブノートは見開きで、右側が白紙のページとなっている。講義で新たな資料の配布があった場合は、そのページに貼り付けを行う。講義には必ず、サブノートを持参すること。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月8日	柏村	心身の発達・顔面頭蓋の発達
2	4月15日	柏村	顔面頭蓋の発達
3	4月17日	柏村	小児の口腔機能の発達
4	4月17日	柏村	乳歯・幼若永久歯の特徴
5	4月24日	柏村	歯の発育
6	4月24日	柏村	歯の発育と異常
7	4月28日	柏村	歯の発育と異常
8	5月26日	柏村	歯列咬合の発育と異常
9	5月26日	柏村	歯列咬合の発育と異常
10	6月10日	柏村	小児の診察と歯科的対応法
11	6月10日	柏村	小児の診察と歯科的対応法
12	6月19日	柏村	小児の齲蝕・齲蝕予防
13	6月19日	柏村	小児の齲蝕・齲蝕予防
14	6月25日	柏村	齲蝕の診断方法
15	6月25日	柏村	乳歯の歯髄処置
16	7月10日	柏村	幼若永久歯の歯髄処置
17	7月22日	柏村	乳歯・幼若永久歯歯冠修復
18	7月22日	柏村	乳歯の抜歯基準
19	7月29日	柏村	乳歯・幼若永久歯の外傷
20	7月29日	柏村	乳歯・幼若永久歯の外傷
21	8月6日	柏村	口腔粘膜疾患
22	8月6日	柏村	小児にみられる感染症
23	8月21日	柏村	保隙と咬合誘導
24	8月21日	柏村	保隙と咬合誘導
25	8月26日	柏村	小児口腔保健
26	8月26日	柏村	小児医療安全
27	10月14日	柏村	臨床実地問題演習
28	11月9日	柏村	臨床実地問題演習

障害者歯科学

担当教員	森田浩光、天野郁子、田﨑園子
教育方法	歯科医師国家試験の出題基準や過去問に沿った内容のプリントを配布して解説するので、それを理解し覚える。
事前事後学習方法	障害者と社会の関係、歯科診療時における障害者への対応法、疾患・症候群の過去の国家試験出題内容を参照し、頻度の高いものから確実に覚えていく。
参考書	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科（知識の確認） Gorlin's Syndromes of the Head and Neck 5th edition（詳しく知りたい場合）
関連DP	Ⅰ-3 歯科医療関連法規について説明できる。
	Ⅲ-15 障害者の口腔疾患の特徴と病因および身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意点を説明できる。
	Ⅲ-18 口腔・顎顔面症状を呈する全身疾患について説明できる。
その他伝達事項	障害者歯科関連の問題集および各種疾患・症候群の資料を配布するので、それを用いて自己学習する。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月8日	田﨑園子	ノーマライゼーション、パターナリズムとインフォームドコンセント、国際生活機能分類
2	4月22日	天野郁子	Down症候群、先天性心疾患
3	5月26日	森田浩光	発達障害、脳性麻痺、てんかん
4	6月30日	田﨑園子	各種疾患、症候群、歯の異常を伴う疾患
5	7月27日	田﨑園子	行動調整
6	7月29日	森田浩光	障害関連法令、障害者歯科全般のまとめ
7	10月20日	天野郁子	必修対策
8	11月4日	森田浩光	総括・強化講義

矯正歯科学

担当教員	阿部朗子、梶原弘一郎
教育方法	第3学年～第4学年時に配布した講義プリントとサブノートを中心に、幅広い領域の重要な部分を説明する。 過去の国家試験を題材に、対策問題を解説する。
事前事後 学習方法	サブノートに記載の過去問を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。 各授業の内容について復習問題プリントを配布するので、解いてミスした内容をサブノートに記載する。
参考書	医歯薬出版 歯科矯正学（第6版・第7版）、矯正歯科治療　この症例にこの装置
関連DP	Ⅲ-11 不正咬合の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
	Ⅳ-9 不正咬合を有する患者の診察、基本的な診断および治療計画の立案ができる。
その他 伝達事項	第3学年～第4学年時および実習の際に配布したサブノート、講義プリント、実習プリントを毎回持参すること。 各講義の前に、サブノート偶数ページの改変問題（25題程度）を毎回解いてから講義やテストに臨むこと。 サブノート奇数ページの参考問題を講義後に解いてミスした内容を記載し繰り返し解くこと。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月8日	阿部	総論Ⅱ（口腔・顎顔面の発生・成長・発育） サブノートp50～p53（不正咬合の原因、先天疾患）-1　国試対策の話
2	4月23日	阿部	総論Ⅶ（不正咬合の治療） サブノートp1～p7（Angleの分類、口腔・顎顔面の成長発育）
3,4	5月1日	阿部	総論Ⅵ（歯列咬合の検査） サブノートp8～p9, p12～p13（歯列模型分析、セファロ分析）
5,6	5月11日	阿部	総論Ⅷ（歯科矯正用材料） サブノートp18～p19, p20～p21（プライヤー類、顎間ゴム）
7,8	5月22日	阿部	サブノートp10～p11, p14～p15（Tweedの抜歯基準、抜歯パターン）
9,10	5月27日	阿部	サブノートp26～p33（AngleⅡ級（上顎前突）症例の治療パターン）
11,12	6月18日	梶原	サブノートp16～p17, p22～p23（外科的矯正治療、マルチブラケット治療）
13,14	7月2日	阿部	サブノートp34～p41（AngleⅢ級（下顎前突）症例の治療パターン）
15,16	7月9日	阿部	サブノートp42～p49, p54～p55(AngleⅠ級症例,開咬,過蓋咬合,保定など)
17,18	7月16日	阿部	不正咬合の検査・診査診断のまとめ　1、2
19,20	7月23日	阿部	混合歯列期の治療のまとめ　1
21	8月5日	阿部	混合歯列期の治療のまとめ　2
22,23	8月20日	梶原	マルチブラケット治療のまとめ　1、2
24,25	8月26日	梶原	他科との共同による治療、保定および矯正治療による偶発症
26	10月19日	阿部	矯正装置各種
27	10月30日	阿部	矯正装置各種　最後のまとめ

口腔外科学・口腔腫瘍学

担当教員	平木昭光、橋本憲一郎、佐々木三奈、勝俣由里、有田英生
教育方法	講義プリントを使用し、幅広い領域の重要な部分を説明する。 その後は、国家試験の過去問から傾向を探り、対策問題を中心に解説する。
事前事後 学習方法	該当領域（疾患）について4年時の講義プリントと過去問、Answerの該当問題、見開き問題集に記載の過去問を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。各授業で扱う内容について復習プリントを渡すので、それを解き自分で答えを調べる。
参考書	なし
関連DP	Ⅲ-10 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-18 口腔・顎顔面症状を呈する全身疾患について説明できる。
	Ⅲ-19 歯科診療時に留意すべき全身疾患とその全身管理について説明できる。
その他 伝達事項	疾患別に講義をします。過去問をひたすら解く。特に、視覚素材がない一般問題を理解する。 →正答選択肢だけではなく、誤答選択肢に関連する用語等をチェックする。 →誤答選択肢も重要語句が多く、他の年度で関連問題が出題されることが多い。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1,2	4/3（金）	平木	3限＋4限　先天異常、口唇裂口蓋裂
3,4	4/16（木）	勝俣	3限＋4限　損傷
5	4/22（水）	平木	4限　粘膜疾患
6,7	5/1（金）	平木	1限＋2限　全身疾患、検査
8,9	5/11（月）	平木	1限＋2限　腫瘍、嚢胞
10,11	5/25（月）	橋本	3限＋4限　炎症、抜歯
12,13	6/1（月）	勝俣	3限＋4限　顎関節、神経
14,15	6/15（月）	佐々木	3限＋4限　血液、感染（ウイルス等）
16,17	6/22（月）	有田	3限＋4限　顎変形症
18,19	7/6（月）	橋本	1限＋2限　唾液腺疾患
20,21	7/24（金）	平木	1限＋2限　口腔癌
22,23	8/3（月）	橋本	3限＋4限　歯原性腫瘍、歯原性嚢胞
24,25	8/17（月）	平木	1限＋2限　口唇裂口蓋裂、顎関節疾患
26,27	8/24（月）	橋本、佐々木	3限＋4限　炎症、骨髄炎
28,29	8/31（月）	平木、有田	3限＋4限　唾液腺、顎変形
30	10/16（金）	平木	4限　悪性腫瘍
31	11/4（水）	橋本	4限　歯原性腫瘍、歯原性嚢胞-2
32,33	10/21（水）	橋本	1限＋2限　コラボ（病理と）
34,35	10/22（木）	平木	1限＋2限　コラボ（病理と）

口腔画像診断学

担当教員	香川豊宏
教育方法	サブノート（2026年度版）をメインに学習し、補足用に配布するプリントと合わせて基本的事項の復習を行います。また、過去問を随時提示し、考え方について学習をします。
事前事後学習方法	サブノートおよび配付資料を復習し、過去問を複数回、解いていきましょう。少なくとも過去問に関しては分からない語句や内容が無いようにしておくことが重要です。
参考書	歯科放射線学　第7版
関連DP	Ⅲ-8 歯・歯周組織の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅳ-3 診断・治療に必要な検査を選択し実施できる。
	Ⅳ-8 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患の診断と基本的治療を実践できる。
その他伝達事項	国家試験、卒業試験においては誤答はちゃんと誤答たる理由があります。正答だけでなく、誤答のどこを修正したら正答になるのかも学習しましょう。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月10日	香川豊宏	放射線物理、放射線の単位
2	4月10日	香川豊宏	デジタルとアナログ、撮影機器の基本的事項
3	5月8日	香川豊宏	放射線の障害、放射線治療
4	5月14日	香川豊宏	口内法
5	5月14日	香川豊宏	パノラマエックス線撮影
6	5月20日	香川豊宏	口外法、造影検査
7	5月28日	香川豊宏	CT・MRI・超音波検査
8	5月28日	香川豊宏	核医学検査
9	6月11日	香川豊宏	嚢胞の画像診断
10	6月11日	香川豊宏	良性腫瘍の画像診断
11	6月23日	香川豊宏	悪性腫瘍の画像診断
12	6月26日	香川豊宏	顎関節の画像診断
13	7月3日	香川豊宏	炎症の画像診断
14	7月17日	香川豊宏	放射線治療の復習
15	7月17日	香川豊宏	単純撮影法の復習
16	8月20日	香川豊宏	特殊撮影法の復習
17	8月20日	香川豊宏	画像解剖の復習1（一般撮影）
18	9月4日	香川豊宏	画像解剖の復習2（特殊撮影）
19	9月4日	香川豊宏	透過像疾患の復習
20	10月15日	香川豊宏	不透過像疾患の復習
21	11月19日	香川豊宏	総まとめ

麻酔管理学

担当教員	池田　水子、野上　堅太郎、守永　紗織、白川　由紀恵
教育方法	講義スライドをもとに重要な部分を説明する。授業中に国家試験過去問を提示し解説する。
事前事後学習方法	事前学習：関連分野の参考書、4年次の講義スライドを見直し復習する。 事後学習：講義スライドをファイリングする。参考書の関連分野を読み、講義スライドに追記する。授業中に提示された国家試験問題を再度自分で解く。
参考書	講義スライド、歯科国試Answer等（国試過去問集）、歯科麻酔・生体管理学（学建書院第2版）
関連DP	Ⅲ-19 歯科診療時に留意すべき全身疾患とその全身管理について説明できる。
	Ⅳ-13 一次救命処置について理解し実践できる。
その他伝達事項	国家試験対策として過去問をひたすら解く。 →正答選択肢だけではなく、誤答選択肢に関連する用語等をチェックする。 →選択肢も重要語句が多く、他の年度で関連問題が出題されることが多い。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月28日	池田	全身麻酔（概論、鎮痛薬、鎮静薬、筋弛緩薬）、モニター（カプノ、脳波、筋弛緩）、悪性高熱症
2	4月28日	池田	術前評価（血液検査、正常心電図、ASA分類）、心不全、NYHA分類
3	5月14日	白川	気道評価、気道確保（気管挿管、上喉頭器具、緊急時気道確保）
4	5月14日	白川	気道確保合併症（誤嚥性肺炎、食道挿管、片肺挿管、喉頭痙攣、嗄声）
5	5月27日	池田	術前評価、呼吸器疾患患者の麻酔（スパイロメトリ、喘息、COPD）
6	5月27日	池田	肝機能障害、腎機能障害患者の麻酔（pH、アシドーシス、浮腫）
7	6月8日	池田	循環器疾患患者の麻酔（不整脈、深部静脈血栓、肺血栓、弁膜症、心内膜炎、抗凝固薬）
8	6月8日	池田	循環器疾患患者の麻酔（高血圧、虚血性心疾患、脳血管障害、抗血小板薬、循環作動薬）
9	7月6日	池田	循環器疾患患者の麻酔（先天性心疾患、チアノーゼ、ヘモグロビン酸素解離曲線）
10	7月6日	池田	内分泌疾患患者の麻酔（糖尿病、甲状腺、副腎、ステロイド）
11	7月17日	野上	局所麻酔（概論、局所麻酔薬）
12	7月17日	野上	局所麻酔合併症（局麻薬中毒、メトヘモグロビン血症）、迷走神経反射、アナフィラキシー、高血圧緊急症
13	8月6日	野上	5大合併症まとめ・比較、救急
14	8月27日	守永	鎮静法（笑気鎮静法、静脈内鎮静法）、モニター(パルスオキシメータ、血圧計)
15	8月27日	守永	バイタルサイン（JCS、呼吸回数、脈拍、血圧、体温）、高齢者・妊婦・小児・障害者
16	9月3日	野上	顎顔面領域の麻痺性疾患
17	9月3日	野上	顎顔面領域の疼痛性疾患
18	10月16日	野上	実力試験1-4の正答率が低い問題を中心に授業を行う
19	10月30日	野上	卒試、模試の正答率が低い問題を中心に授業を行う

総合医学

担当教員	古村南夫、鳥巣浩幸、山野貴史、京極幸子
教育方法	歯科医師に必要な医科の重要知識を国家試験に頻出する問題を中心に解説する。
事前事後 学習方法	授業前に３年次・５年次の内科学・隣接医学各科の講義資料や教科書に目を通して授業に臨む。 疑問点は事前に確認し、授業中に解決できるようにする。
参考書	講義の配布資料および各科の教科書
関連DP	Ⅲ-17 主要な医科疾患の症候について説明できる。
その他 伝達事項	歯科医師国家試験過去問を丁寧に解く。 →正答選択肢だけではなく、誤答選択肢に関連する用語等をチェックする。 →問題に関連する領域の知識を再確認し理解しておく（どんな改題があり得るかを考えてみる）。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月24日	京極	【内科学1】バイタルサインと身体所見
2	5月29日	山野	【耳鼻科学】嚥下障害の診断と治療
3	7月24日	鳥巣	【小児科学】成長・発達と感染症
4	8月7日	古村	【皮膚科学】口腔粘膜・皮膚症状と全身疾患・症候群
5	10月15日	京極	【内科学2】呼吸器疾患、循環器疾患、神経疾患
6	11月5日	京極	【内科学3】検査データの読み方と生活習慣病

口腔保健学・社会歯科学・医療倫理学

担当教員	谷口奈央、島津　篤、永嶋哲也、藤本暁江、内藤麻利江
教育方法	歯科医師国家試験出題基準（令和5年版）の担当項目を網羅的に復習する。同時に、最近の国家試験の傾向に基づいた対策問題を中心に解説する。
事前事後学習方法	シラバスに記載されている授業内容に対応する過去に使用した教科書の部分を確認する。
参考書	衛生学・公衆衛生学、口腔保健・予防歯科学
関連DP	Ⅰ-2 医療倫理と研究倫理について説明できる。
	Ⅰ-3 歯科医療関連法規について説明できる。
	Ⅲ-22 健康と社会・環境の関係および公衆衛生に必要な予防と健康管理について説明できる。
その他伝達事項	

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月6日	島津	衛生(人口統計１)
2	4月6日	島津	社会歯科(歯科医師法)
3	4月13日	谷口	口腔保健(歯の沈着物、う蝕・歯周病予防)
4	4月13日	島津	社会歯科(医療従事者)
5	4月14日	谷口	口腔保健(疫学指標: う蝕、歯周病、口腔清掃状態、不正咬合)
6	4月20日	島津	衛生(人口統計２)
7	4月20日	島津	社会歯科(医療法)
8	4月21日	谷口	口腔保健(歯磨剤、洗口剤、プラークコントロール)
9	4月27日	谷口	衛生(食事摂取基準、食事バランスガイド)
10	4月27日	島津	衛生(地球環境)
11	5月12日	谷口	衛生(食品衛生、食中毒)
12	5月29日	永嶋	医療倫理(倫理宣言、患者の権利)
13	5月29日	島津	社会歯科(社会保障制度)
14	5月29日	藤本	社会歯科(薬機法)
15	6月4日	島津	社会歯科(医療安全)
16	6月4日	谷口	口腔保健(寄与危険、相対危険、オッズ比、研究の種類)
17	6月15日	谷口	口腔保健(口臭、禁煙支援)
18	6月15日	島津	社会歯科(高齢者)
19	6月19日	島津	衛生(温熱環境)
20	6月19日	内藤	衛生(水質)
21	6月26日	島津	口腔保健(フッ化物応用１)
22	6月29日	島津	口腔保健(スクリーニング検査)
23	6月29日	永嶋	医療倫理(インフォームドコンセント、研究倫理、プライバシー、倫理原則)

24	7月3日	島津	口腔保健(地域保健)
25	7月3日	谷口	口腔保健(母子保健)
26	7月17日	谷口	口腔保健(学校保健)
27	8月7日	島津	衛生(感染症対策)
28	8月7日	谷口	口腔保健(成人保健、生活習慣病対策、健康日本21第三次)
29	8月21日	島津	社会歯科(医療介護総合確保法)
30	8月21日	島津	社会歯科(歯科口腔保健法)
31	9月4日	谷口	口腔保健(産業保健)
32	9月4日	島津	口腔保健(フッ化物応用２)
33	10月15日	島津	口腔保健(国際保健)
34	11月5日	谷口	口腔保健(保健指導)

生化学

担当教員	梅津 桂子
教育方法	講義で使用する書き込み用資料は全て生化学講義サブノートに掲載している(下記の講義コマ番号はサブノートページ右上の番号に対応)。 配布するサブノートは書き込み部分を空欄としているが、穴埋め版のPDFをMoodleに掲載している。講義前・講義中・復習にどちらを用いるのか、各自の学習スタイルに合わせて活用すること。講義中に重要語句について確認した上で、国家試験過去問の解説を行う。サブノートの各々の「まとめ」資料の後に掲載している国家試験過去問については、重要ポイントの解説を行うが、基本的に自己学習課題とする。
事前事後学習方法	事前にサブノートに掲載の問題や書き込み部分を予習しておくことも可能であるが、重要なのは**講義後に充分に復習して知識を体系的に理解すること**である。講義１−６は国家試験の過去問とそれに対応する知識の整理、講義７−９の「まとめ１−４」は重要ポイントを比較しながら体系的にまとめて知識を確認し直すのが目的である。サブノートに付録として掲載の「必修レベルの知識を問題形式でまとめたもの」は講義１−６の基本となる内容であり、講義１−６の進行に合わせて自己学習することが望ましい。
参考書	口腔生化学（医歯薬出版）、Essential細胞生物学（南江堂）
関連DP	Ⅲ-1 生命の分子基盤および細胞の構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
その他伝達事項	講義は自己学習課題の必須問題を含め、一般問題・全体的まとめの順で重要ポイントを３回繰り返す形式となっています。それぞれのレベルの知識を確実に習得して次の段階に進むよう心掛けて学習してください。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1 (B1)	4月7日(火) １限	梅津 桂子	国家試験過去問：結合組織１：総論　線維成分 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
2 (B1)	4月21日(火) ２限	梅津 桂子	国家試験過去問：結合組織２：基質成分　基底膜 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
3 (B1)	5月13日(水) ４限	梅津 桂子	国家試験過去問：硬組織のタンパク質　石灰化機構 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
4 (B2)	6月3日(水) １限	梅津 桂子	国家試験過去問：血清カルシウム調節ホルモン 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
5 (B2)	6月10日(水) ２限	梅津 桂子	国家試験過去問：唾液１：総論　無機成分 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
6 (B2)	7月1日(水) １限	梅津 桂子	国家試験過去問：唾液２：重要なタンパク質成分とその作用 重要な国家試験過去問について必要な知識を整理した上で理解する
7 (B3)	7月21日(火) ４限	梅津 桂子	まとめ１：重要なタンパク質：タンパク質の生合成について確認した上で、生体内の重要なタンパク質の構造と機能を体系的にまとめる
8 (B3)	8月4日(火) １限	梅津 桂子	まとめ２：硬組織の無機成分と石灰化機構：エナメル質と骨・象牙質・セメント質について、組成や石灰化機構を比較しながら体系的にまとめる
9 (B3)	8月27日(木) ２限	梅津 桂子	まとめ３：血清カルシウム代謝と調節：血清カルシウムの調節に関わる３つのホルモンについて比較しながらまとめると共に、ホルモン間の調節機構を理解する まとめ４：唾液の成分：主な唾液のタンパク質について作用や特徴を比較しながら体系的にまとめる
10 (B5)	10月13日 （火） ２限	梅津 桂子	総括・強化講義：模擬試験等から強化する必要がある項目を選別し解説する
11 (B5)	11月6日 （金） １限	梅津 桂子	総括・強化講義：模擬試験等から強化する必要がある項目を選別し解説する

上記コマ欄の「B」は時間割の「ブロック」を示す。

感染生物学：微生物学・免疫学

担当教員	永尾潤一
教育方法	「重点問題」（国家試験過去問から抽出した全国正答率７割以上の問題（必修、一般））と「重点問題」で不足する国家試験重要項目を学習テーマとする。プリント資料を使用し、幅広い領域の基本的で重要な部分を説明する。
事前事後学習方法	「重点問題」を事前に解き授業に臨む。疑問に思う点を事前に確認しておく。
参考書	教科書：口腔微生物学－感染と免疫－（学建書院）、２・３年生時のプリント資料
関連DP	Ⅲ-4 微生物の病原性と感染による病態および免疫機構について説明できる。
その他伝達事項	国家試験過去問をひたすら解くのではなく、改変問題を出題されても対応できる実力を身につけること。「重点問題」と講義で説明される重要項目を優先して学習すること。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月6日①	永尾潤一	微生物学１、微生物の種類と分類、構造と機能
2	4月20日②	永尾潤一	免疫学１、自然免疫と獲得免疫
3	5月12日④	永尾潤一	微生物学２、口腔常在菌、歯垢、う蝕
4	6月3日③	永尾潤一	微生物学３、歯周病、口腔微生物と全身疾患
5	6月17日①	永尾潤一	免疫学２、免疫系担当臓器・細胞
6	7月1日④	永尾潤一	微生物学４、う蝕・歯周病以外の口腔感染症、全身における感染症（細菌、真菌）
7	8月5日④	永尾潤一	微生物学５、全身における感染症（ウイルス）
8	9月2日①	永尾潤一	免疫学３、免疫・病因と病態
9	9月2日②	永尾潤一	微生物学６、滅菌と消毒、薬剤耐性菌
10	10月14日④	永尾潤一	実力試験１～４の正答率が低い問題の学習テーマ
11	10月30日④	永尾潤一	卒業試験・模擬試験の正答率が低い問題の学習テーマ

生体工学

担当教員	都留寛治、丸田道人、梶本昇
教育方法	講義時に配付するレジュメを用いて、テーマ毎に重要ポイントを解説する。
事前事後 学習方法	レジュメ及びテーマ毎のまとめ資料（Moodle）を活用し、知識の定着を図る。
参考書	スタンダード歯科理工学、見開き問題集Web版
関連DP	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
その他 伝達事項	必要最低限の必須事項（分類、組成、役割、性質、硬化反応など）については必ず暗記すること。この努力なくして成績向上はあり得ません。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月13日	梶本　昇	第１章：材料の性質
2	4月13日	梶本　昇	第２章：歯科用印象材
3	4月27日	都留寛治	第３章：歯科用石膏、第４章：パターン材
4	4月27日	都留寛治	第５章：歯科用埋没材
5	6月1日	丸田道人	第６章：歯科用合金・鋳造欠陥
6	6月1日	丸田道人	第７章：歯科用セラミックス
7	6月22日	梶本　昇	第９章：コンポジットレジン・歯質接着　その①
8	6月22日	梶本　昇	第９章：コンポジットレジン・歯質接着　その②
9	7月27日	都留寛治	第８章：義歯床用レジン
10	8月17日	都留寛治	第１０章：セメント　その①
11	8月17日	都留寛治	第１０章：セメント　その②
12	8月31日	丸田道人	第１１章：切削・研磨
13	8月31日	丸田道人	第１２章：臨床用材料
14	10月22日	都留寛治	見開き問題集復習①
15	11月2日	都留寛治	見開き問題集復習②

機能構造学（組織）

担当教員	稲井哲一朗、大谷崇仁
教育方法	組織学総論・各論、発生学、口腔組織学の「学習テーマ（５１テーマ）」別に授業を行う。 ①授業を聴いて、語句の定義、組織構築（組織像、模式図など）が分かっているか確認する ②学習テーマごとの必要最低限の知識を確認し修得する ③講義プリントの必修確認問題（302問）を解いて知識を確認し修得する ④講義資料(スライド形式の配布資料)に掲載している国試過去問を解いて知識を確認し修得する。なお、歯の解剖学は児玉先生が担当・講義する。
事前事後 学習方法	①講義プリントの必修確認問題を解いて、自分の知識の不足部分を把握して講義にのぞむ。 ②講義で学習テーマごとの知識を確認し理解する（何を覚えればいいかの確認）。 ③必修確認問題、国試過去問を解いて知識が定着しているかを確認する。
参考書	講義プリント（主教材。必修確認問題を含む）、講義資料（副教材。国試過去問を含む）
関連DP	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-3 人体の発生、発育および加齢変化を説明できる。
	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
その他 伝達事項	国試合格の戦略：「学習テーマ」ごとの必要最低限の知識を整理・修得し、復習をくり返す。 自分の現状を知り、弱点を改善し、復習することを繰り返して知識を定着させる。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月7日	稲井	細胞小器官、上皮、皮膚と口腔粘膜、舌と味蕾
2	5月13日	稲井	結合組織（血球、骨、軟骨を含む）、筋組織、神経組織
3	6月2日	稲井	骨の由来と骨化様式、内分泌腺、エナメル質
4	7月3日	稲井	象牙質・歯髄複合体、歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉）
5	7月7日	稲井	歯肉、外分泌腺と唾液腺、顎関節、上顎洞、扁桃、歯と歯周組織の加齢変化
6	7月28日	稲井	歯と歯周組織の発生、細胞周期、染色体と細胞分裂、ヒトの発生の概要と初期発生
7	8月18日	稲井	三胚葉と神経堤、鰓弓・鰓溝・咽頭嚢、顔面の発生と異常、口蓋と舌の発生
8	10月19日	大谷・稲井	総復習１
9	11月4日	大谷・稲井	総復習２

機能構造学分野（解剖）

担当教員	児玉淳、林慶和
教育方法	講義(配布プリント等）を中心にして展開する。
事前事後 学習方法	これまで学習した内容を振り返り，理解度の低い項目について取りまとめ，講義に臨む。
参考書	口腔解剖学第2版（医歯薬出版）
関連DP	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-6 歯・歯周組織・口唇・口腔・顎顔面領域の基本構造と機能を説明できる。
その他 伝達事項	

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月7日	林	4月7日(火)2限　骨・筋学（関連領域を含む）
2	5月13日	児玉	5月13日(水)2限　骨・筋学（関連領域を含む）
3	6月9日	林	6月9日(火)3限　内臓学（関連領域を含む）
4	6月23日	児玉	6月23日(火)1限　脈管学（関連領域を含む）
5	7月7日	林	7月8日(火)4限　脈管学（関連領域を含む）
6	7月28日	児玉	7月28日(火)4限　神経学（関連領域を含む）
7	8月4日	林	8月4日(火)2限　神経学（関連領域を含む）
8	8月25日	児玉	8月25日(火)1限　神経学（関連領域を含む）
9	10月20日	林	10月20日(火)1限　必修対策

法歯学

担当教員	児玉　淳
教育方法	過去の国家試験問題，模擬試験問題から傾向を知り，応用していく。
事前事後 学習方法	過去の国家試験問題を事前に解いてみる。
参考書	法歯科医学（永末書店）：図書館
関連DP	Ⅰ-1 歯科医療の目的と歯科医師の役割を説明できる。
	Ⅲ-24 災害時に必要な歯科的対応と歯科による個人識別について説明できる。
	Ⅰ-9 自らの目標を設定し、達成のため自発的意志に基づき学修できる。
その他 伝達事項	法歯学的基礎知識を理解する。（解剖の種類，死体現象，関連法規，幼児虐待） 法歯学に必要な歯の解剖について理解する。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	6月2日	児玉	死体解剖と死因究明制度，歯科医師と関連法規
2	6月23日	児玉	歯の解剖学（歯と個人識別）,個人識別における頭蓋の重要性
3	7月24日	児玉	死後変化，異状死，身元確認の方法，死後変化について
4	8月18日	児玉	大規模災害時における検死（視）と法医学・法歯学,デンタルチャートについて

病態構造学

担当教員	吉本尚平、和田裕子
教育方法	国家試験出題基準の内容を中心に授業をする。国家試験の過去問から傾向を探り、改変問題や既存の模試公開問題も踏まえ、各回の内容（国家試験出題基準に準拠）について講義を行う。
事前事後学習方法	サブノートの内容を事前に学習し疑問点を整理・確認しておく。 また、受講後は復習を欠かず、新たに生まれた疑問点について調べたり、質問すること。
参考書	以下の参考書を疑問点や理解が不十分な内容を調べる際に活用すること。 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎　編集『標準病理学』第6版 医学書院 2019 高田隆、下野正基　編集『新口腔病理学』第３版　医歯薬出版　2021 髙木實 監修　高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版　文光堂　2018
関連DP	Ⅲ-5 疾病の発生機序、病的変化および転帰について説明できる。
	Ⅳ-3 診断・治療に必要な検査を選択し実施できる。
その他伝達事項	オンラインに展開されている2年病理学、3年口腔病理学、4年基礎臨床統合演習での講義資料も参考に苦手領域を補うこと。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	2026/4/7	吉本	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　ア 内因、外因
2	2026/4/21	吉本	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　エ 細胞・組織の適応
3	2026/5/12	和田	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　オ 循環障害
4	2026/6/10	吉本	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　イ 細胞・組織の傷害
5	2026/6/25	吉本	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　ウ 修復と再生
6	2026/6/29	和田	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　カ 炎症（キ 感染症）
7	2026/7/21	和田	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　ク 免疫異常
8	2026/8/10	和田	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　ケ 嚢胞
9	2026/9/1	吉本	総論Ⅲ 病因、病態 １ 病因・病態　コ 腫瘍
10	2026/9/1	和田	必修対策／大項目4,6,9
11	2026/10/20	吉本	総論Ⅳ 検査 ３ 検体検査　ア 検体検査　ｆ 病理学検査
12	2026/10/30	和田	総括・強化講義

細胞生理学

担当教員	藤田亜美、進　正史
教育方法	国試問題への対応力を養うことを目的に、他教科と関連する領域や国試出題頻度の高い生理学関連領域について解説する。
事前事後 学習方法	授業に関連するAnswerの重点問題を解いておく。 授業内容について復習するとともにAnswer掲載の関連問題について解説を含めて理解する。
参考書	基礎歯科生理学　第６版（第７版）　医歯薬出版
関連DP	Ⅲ-1 生命の分子基盤および細胞の構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
その他 伝達事項	Moodle 教材「生理学・口腔生理学の要点」を活用する。□

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月8日	進	血液成分と機能、造血、貧血、血液型、止血機序
2	4月8日	藤田	内分泌の基本事項
3	5月13日	藤田	呼吸器の機能、呼吸調節、換気障害
4	6月9日	進	口腔顎顔面領域の感覚
5	6月16日	進	運動と反射（脊髄反射、顎反射）、筋の種類と収縮機序
6	6月23日	藤田	循環器の機能
7	8月10日	藤田	末梢神経と中枢神経の機能、自律神経系の伝達物質と受容体□
8	8月25日	進	唾液線の神経支配と唾液分泌、嚥下と嘔吐
9	9月1日	進	ホメオスタシス（浮腫と脱水、酸塩基平衡）
10	10月22日	藤田	弱点項目の補強講義
11	11月6日	藤田	弱点項目の補強講義

分子機能制御学（生物）

担当教員	藤兼亮輔、日高真純
教育方法	国家試験の過去問題と関連させながら、基礎生命科学の必修領域を説明する。
事前事後 学習方法	事前にその日の講義関連問題に取り組み、自分の苦手領域の克服を目的として講義に臨んでください。
参考書	Essential細胞生物学、当日配布資料
関連DP	Ⅲ-1 生命の分子基盤および細胞の構造と機能を説明できる。
	Ⅲ-2 人体の基本構造と機能を説明できる。
その他 伝達事項	この講義で取り扱う関連問題の正答率は80%以上が求められます。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	5月21日	藤兼	細胞の構成成分、細胞小器官、代謝、遺伝情報の発現、
2	9月4日	日高	遺伝情報と伝達、染色体分配と遺伝、細胞周期、細胞死、バイオテクノロジー、 細胞間接着と細胞外マトリックス
3	10月21日	日高	PCRの原理と細胞内DNA複製との共通点と相違点、遺伝子発現の調節

分子機能制御学分野（薬理）

担当教員	八田　光世
教育方法	薬理学Ⅰ（総論）およびⅡ（各論） それぞれのサブノートの内容を2つに分けて、前半を❶、後半を❷とする。 それぞれ、①-③の流れで学習を進める。 ①サブノートを使用し、重要ポイントの確認と国家試験過去問を解く。 ②理解度チェックを行い、弱点を見つける。 ③再度、サブノートに戻って弱点補強を行う。 国試模試の過去問演習 初見問題や類似問題を解くことができるか確認する。 総合分析テスト 薬理学の総合的な分析テストにより達成度を調べ、最終的な弱点克服を図る。
事前事後 学習方法	事前学習：重要ポイントを確認し、国家試験過去問を解く。 事後学習：サブノートと理解度チェックの見直しなど、繰り返し復習する。
参考書	サブノートを中心に授業をするが、薬理学の教科書などを手元に置いておくのが望ましい。
関連DP	Ⅲ-20 薬物の体内動態と薬理作用について説明できる。
その他 伝達事項	①サブノートに出てくる薬物名や用語はすべて覚えること。 ②サブノートの項目と試験問題（理解度チェックや実力試験、予備校模試など）を結び付けて復習すること。 ③試験問題の復習では、「なぜその解答になるのか」について他者に説明できる状態にまでもっていくこと。

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月20日	八田　光世	オリエンテーション、授業の進め方、国試対策について 薬理学Ⅰ・Ⅱ ❶ ①重要ポイントの説明、国家試験過去問の解説および問題演習
2	5月13日	八田　光世	薬理学Ⅰ・Ⅱ ❶ ②理解度チェック（マークシート形式）
3	6月9日	八田　光世	薬理学Ⅰ・Ⅱ ❶ ③フィードバック、まとめ授業と弱点補強 薬理学Ⅰ・Ⅱ ❷ ①重要ポイントの説明、国家試験過去問の解説および問題演習
4	7月10日	八田　光世	薬理学Ⅰ・Ⅱ ❷ ②理解度チェック（マークシート形式）
5	8月5日	八田　光世	薬理学Ⅰ・Ⅱ ❷ ③フィードバック、まとめ授業と弱点補強 国試模試の過去問演習
6	8月10日	八田　光世	総合分析テスト
7	9月1日	八田　光世	総合分析テスト結果の総評・フィードバック、弱点補強
8	10月14日	八田　光世	これまでの試験問題や重要ポイントの復習 国試模試の過去問演習
9	11月9日	八田　光世	これまでの試験問題や重要ポイントの復習 国試模試の過去問演習

基礎と臨床を繋ぐ

担当教員	清水博史
教育方法	スライドを使用して解説する　講義内容をまとめたハンドアウトを毎回配布する。
事前事後 学習方法	配布したハンドアウトを使って復習してほしい　知識の定着には繰り返しが大事
参考書	なし
関連DP	Ⅲ-21 歯科診療に用いる材料・器械・器具について説明できる。
	Ⅳ-7 歯質欠損・歯の欠損の診断と基本的治療を実践できる。
その他 伝達事項	歯科材料を中心に基礎的な理論と保存修復や補綴の臨床手技がなかなか繋がらないような知識を繋ぐ　ハンドアウトの内容はミニマムであっていわゆる資料集ではない　国試対策が第一義であるがそれ以外にもこの講義は将来の仕事にきっと役立つ　国試に出る英語と教養を含む

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	4月14日	清水博史	歯科接着の理論と臨床応用
2	4月14日	清水博史	レジンセメントの理論と使用法
3	4月21日	清水博史	歯科トピックと国試対策英語
4	6月8日	清水博史	ジルコニアの理論と歯冠修復
5	6月8日	清水博史	二ケイ酸リチウムガラスの理論と歯冠修復
6	9月2日	清水博史	チタンの理論と鋳造法
7	9月2日	清水博史	CAD/CAM冠の製作法と装着法
8	10月19日	清水博史	磁性アタッチメントの製作法と義歯装着時の手技
9	11月18日	清水博史	歯科理工学と歯科技工　冠橋義歯製作編
10	11月18日	清水博史	歯科理工学と歯科技工　有床義歯製作編

コラボ（口外、病理）

担当教員	（口腔外科）平木昭光、橋本憲一郎、（病理学）吉本尚平、和田裕子
教育方法	口腔外科、病理組織学の教員が、例題について配布資料とスライドを基に各専門の立場から説明し、回答するためのポイントを解説する。その際に配布資料への書き込み、教科書の該当箇所を読む。
事前事後学習方法	事前）Answerの該当箇所の問題を解いて解説を読む、事後）配布資料の復習と教科書での確認
参考書	シンプルテキスト 口腔外科の疾患と治療　第6版　永末書店
関連DP	Ⅲ-10 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病因を説明できる。
	Ⅲ-5 疾病の発生機序、病的変化および転帰について説明できる。
	Ⅳ-8 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患の診断と基本的治療を実践できる。
その他伝達事項	

授業計画

コマ	日時	担当教員	授業内容
1	10月21日（水）	口外、病理	1限　口腔癌　平木（口外）、和田（病理）
2	10月21日（水）	口外、病理	2限　歯原性腫瘍　橋本（口外）、和田（病理）
3	10月22日（木）	口外、病理	1限　唾液腺疾患　平木（口外）、吉本（病理）
4	10月22日（木）	口外、病理	2限　粘膜疾患　橋本（口外）、吉本（病理）

成績評価方法、GPA（Grade Point Average）の活用について

GPA（Grade Point Average）

各授業科目の評点を５段階評価し（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｃ−・Ｄ）、それを４から０の点数（GP: Grade Point）に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和（GPT：Grade Point Total）を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～ 80点	A	4
79点～ 70点	B	3
69点～ 60点	C	2
再試60点	C−	1
59点～ 0点	D	0

GPA の算出方法

GPA ＝ GPT ／ 履修単位数の合計

(GPT ＝ [GP × 単位数] の総和)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
○○学講義	1	86	A	4	4
○○学講義	2	再試60	C−	1	2
○○学演習	2	60	C	2	4
○○学実習	3	72	B	3	9
計	8[*1]				19[*2]

GPA ＝ 19(GPT [*2]) ÷ 8（単位数の合計[*1]）＝ 2.38 （小数第３位四捨五入）

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

１）基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目

２）編入学または転入学した際の単位認定科目

３）本学入学前に修得した単位認定科目

４）その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPA の活用目的

１）学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

２）特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福 岡 歯 科 大 学

〒814-0193　福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話　092（801）0447番
Fax　092（801）0427番